

◆ 暮らしの課題解決

図書館では市民生活のうえで特に関心の高い課題として、4つのテーマ「医療・健康情報（岡町）」・「多文化共生（庄内）」・「ビジネス・就労（千里）」・「子育て・DV（野畑）」を設定している。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、集会の催しも再開されるようになった。各テーマにそった資料収集や情報提供などを引き続き工夫しておこなった。

各テーマごとの取り組み（市民協働事業については別途掲載 9 ページ）	
医療・健康情報	<講座・関連資料の展示・貸出・調べ方案内> ○認知症サポーター養成講座（5回 会場：岡町、庄内、千里、野畑、東豊中図書館 共催：長寿安心課・豊中市キャラバンメイト連絡会） ○小学生対象の認知症サポーター養成講座（会場：高川図書館 共催：緑地地域包括支援センター高川分室） ○「2025年大阪・関西万博に向かってめざそう！『10歳若返り』展示」（市内8館で巡回展示 令和5年10月～令和6年5月） <その他> ○図書館 Web サイト上の闘病記リストの更新
多文化共生	<選書> ○とよなか国際交流協会を通して、市内在住の外国語を母語とする人へ読みたい本・必要とする本（外国語で書かれたもの）のニーズ調査を実施 ○書店が開催する外国語資料の選書イベントに参加 <多文化コーナーのPR> ○「日本語教室」（会場：庄内公民館 主催：とよなか国際交流協会）での情報提供（関連資料のリスト・外国語版の「豊中市立図書館を使う方へのお知らせ」（貸出のきまり）を配布、図書の展示） ○庄内図書館常設展示「ヒトハコ図書館」で外国語の子どもの本を展示・貸出 ○「さくらアートマルシェ」における「タイの文化体験会」にてタイ語の資料を展示（会場：庄内コラボセンター 主催：しょうない SakurART 第二期） <配本・貸出> ○とよなか国際交流協会への外国語資料の配本・貸出
ビジネス・就労	<ビジネス・就労支援サービスのPR> ○パスファインダー「業界動向」「事業を始める・起業」「特許・知的財産」「就職・転職」「事業承継」の改訂 ○千里図書館ビジネス・就労支援コーナーにて月替わりのテーマ展示を実施 <貸出> ○「とよなか起業・チャレンジセンター」へのビジネス・就労支援関連資料の貸出

子育て・DV	<一時保育の開始> ○岡町、千里、野畑図書館で「図書館で一時保育～ほっと一息 私の時間～」を9月より実施 <子育てスペースの拡張> ○岡町、東豊中図書館 乳幼児スペースなどを設置 ○野畑図書館 子育て応援コーナーを設置 <展示> ○児童養護施設パネル展と関連図書の展示・貸出 (会場：岡町図書館 主催：児童養護施設・大阪水上隣保館 翼)
--------	---

◆ 団体へのサービス

学校、放課後こどもクラブ、幼稚園、保育所（園）、こども園、高齢者施設、障害者施設や、子ども文庫、おはなしボランティアグループ、読書会などの市内の活動グループに資料貸出などの支援をおこなっている。

<学校図書館>

学校内での児童・生徒のリクエスト対応の支援や、調べ学習に使用する資料の提供などを実施している。

公共図書館司書と学校司書との地域館交流会は年に2回開催。公共・学校間およびエリアの学校間での情報交換などをおこない、連携事業をすすめている。小中学校の児童・生徒が作成したおすすめ本のPOPなどを展示するとともに、紹介された本の展示・貸出をおこなった館もあった。

野畑図書館では、こども室の一角に「学校の授業で使われた本」を展示。図書館ウォークラリーも開催した。

高川図書館では、夏休みスタンプラリーを実施したほか、第十二中学校の生徒が小学生に向けておこなう紙芝居会のために資料の選書と提供、中学生・小学生双方の感想の掲示をおこなった。また、担当エリアの小中学校卒業生全員にYAコーナーのPR文を配布。小中学校教員には豊中市立図書館の利用方法に加え、教員支援用資料の検索方法やその貸出ベストを紹介した。

令和5年度は小中学校図書館への貸出冊数は前年比8.9%減。

■小中学校図書館への貸出冊数 45,894冊

<学校図書館支援ライブラリー>

学校図書館の「読書」「学習・情報」「教員支援」の3つの機能をサポートしている。

令和5年度は魚の図鑑の追加購入や、「災害・防災」関連の新しい資料を購入、サポートパックへ追加した。また新たな教科書に対応できるよう、情報・メディアリテラシー関連の本も購入し、学校図書館のニーズに込えている。

<幼稚園・保育所（園）・こども園・放課後こどもクラブなど>

幼稚園・保育所（園）・こども園・家庭保育所・認可外保育施設に団体貸出をおこなっている。季節や行事などに関係する資料や、平和・家族・仕事などのテーマの資料に関するリクエストも多い。貸出や受取場所などについて各施設の相談にも応じ、選書・配本など支援している。

放課後こどもクラブへは、申込があった 30 校に団体リサイクル本「ひと箱おまかせパック」を配達した。

<子ども文庫>

市内の子ども文庫は13文庫。そのうち「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は9文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また、子どもをとりまく大人の交流の場として地域に根づいている。図書館は長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供するなど文庫活動の支援につとめている。

「子どもと本のまつり」（共催：豊子連）は7月に開催。5つのおはなし会と手作り工作をおこなった。国際交流の会とよなか（TIFA）協力のもと、タイ語とスペイン語による多言語おはなし会も実施した。「子どもと本のつどい」（共催：豊子連）では、絵本作家の岡田よしとかさんを講師に「岡田よしとかまるごとライブ」を11月に開催し、絵本原画展も同時期に10日間開催した。



「子どもと本のまつり」



「子どもと本のつどい 岡田よしとかまるごとライブ」

<おはなしボランティア>

令和 5 年度も多くボランティアグループがおはなし会の回数や人数などに応じたプログラム作りを工夫し、図書館では選書や打ち合わせの機会に相談を受けるなど活動をサポートしている。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止のために休止となったままの活動もある。放課後こどもクラブや病院などでの読み聞かせは、再開に向けて方法を模索中である。図書館に関連する各グループの活動内容については「市民との取り組み事業」（9 ページ）を参照。

岡町図書館では「子どもと本をつなぐボランティア講座」（全 6 回）を実施したほか、「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」として、神戸教育短期大学絵本専門士育成講座講師の尾野三千代さんによる講演「子どもに本を手渡すために～子どもに定番絵本の読み聞かせを～」を開催した。

<「りんごの棚」展示セット>

特別なニーズのある子どもたちの読書の手段を知るために「りんごの棚」展示セットの貸出をおこなっている。6 校の小学校のほか、様々な施設で 15 回展示がおこなわれた。小学校では、図書の時間での活用のほか、人権参観や人権講演会に合わせて紹介されたりした。「初めて見る資料に子どもたちは興味津々であった」「多くの児童が読んだり触れたりしていた」などの声が寄せられた。支援学級に通う児童や外国にルーツがある親子など、特別なニーズのある子どもたちに資料を届けるきっかけにもなっており、好評を得ている。

◆ 障害者サービス

令和5年度は重度の身体障害や知的障害、精神障害などにより図書館への来館が困難な利用者を対象に印刷（墨字）図書の郵送貸出サービスのPRに取り組んだ。

障害福祉センターひまわりとの共催で、夏休みに小学生とその保護者を対象に「おやこ点字体験教室」を開催した。図書館からは点字図書やさわる絵本を紹介し、普段点字に触れることの少ない子どもたちが自ら点字を打ち、様々な資料にふれる体験を通し、視覚障害者やボランティア活動への理解が深まる機会を設けた。

音点訳図書の製作候補の選定にあたっては例年同様に個別に聞き取りをし、利用者のリクエストも反映できるようにした。製作されたデータは豊中市立図書館から国立国会図書館・サピエ図書館^{*1}を通して提供している。新しく製作した音声デイジー図書^{*2}はすぐにリクエストが入るなど全国の利用者からのニーズも高い。また、所蔵のない音訳図書については、製作ボランティアにプライベート音訳として製作を依頼するなど、様々なニーズに応えた。例年通り「音訳ボランティアフォローアップ講座^{*3}」を2回実施した。

点訳については令和4年度に引き続き外部機関に印刷（墨字）図書のテキストデータ化を依頼し、図書館で点字データに変換した後、製作ボランティアの点字校正を経て、点字図書として提供する試みをおこなった。

Daigas グループ小さな灯運動から、プレクストーク PTN3^{*4}の寄贈があった。また、図書館でも新たに10台購入し、利用者へ貸出している。伊藤忠記念財団からマルチメディアデイジー図書「わいわい文庫」の寄贈があった。

また、障害者サービスについて広く知ってもらうため、岡町図書館でテーマごとの展示をおこない、障害者サービスの対象ではない来館者からも関心を持ってもらうきっかけになった。

図書館協議会から図書館での読書バリアフリーの取り組みについて、「豊中市立図書館における読書バリアフリーの取り組みのあり方について（報告）」の提出を受けた。すべての人の「わたしの図書館」をめざし、今後もアウトリーチサービスの充実のもと、多様化するニーズに応えられるようサービスの提供につとめる。

*1 音点訳図書をはじめとする障害者用資料の所蔵施設などが調べられる全国的な書誌データベース。

*2 音声情報を圧縮して記録した録音図書。

*3 音訳ボランティアの技術向上のため実施している講座。

*4 視覚に障害のある人が読書するための卓上型音声デイジー図書再生機。

◆ 図書室

利倉西センター図書室には約5,500冊の資料があり、週2回午後2時から午後5時まで開室している。猪名川の西側にある共同利用施設利倉西センターに併設しており、利倉西町1丁目・2丁目にお住まいの方を中心に利用されている。

■貸出人数 2,167人 ■継続貸出を除く個人貸出冊数 7,159冊

◆ 図書サービスポイント

いぶき（3F）図書サービスポイントは、青少年交流文化館いぶき内にて、週2回午後1時15分から午後4時45分までサービスを提供。

令和6年2月施行の「図書サービスポイントに関する要綱」により「いぶき（3F）サービス」から「いぶき（3F）図書サービスポイント」と名称を変更した。サービス内容は、①予約確保資料の受け取り②貸出資料の返却③リクエスト票の預かりなどである。

豊中駅図書サービスポイントについては、トピックスの「豊中駅図書サービスポイントを開設」（4ページ）を参照のこと。

[いぶき（3F）図書サービスポイント]

■貸出人数 2,863人 ■継続貸出を除く個人貸出冊数 6,153冊

[豊中駅図書サービスポイント]

■貸出人数 3,932人 ■継続貸出を除く個人貸出冊数 7,540冊

※豊中駅図書サービスポイントは令和6年2月6日よりサービス開始

◆ 動く図書館「とよ1ぶっくる」による巡回サービス

図書館から離れたエリアや来館が困難な子どもたちの通う児童発達支援施設など合計20か所へ、動く図書館車で約4週間に1回ずつ巡回サービスをおこなった。動く図書館車の積載冊数は約3,000冊と限られているが、定期的な資料の入れ替えや月ごとの特集展示をおこなうなど、いつ見ても新しい資料を手にとりいただけるよう心がけた。30～40代の子育て世代や学齢期の子ども、後期高齢者など、遠くまで出向くことが難しいと思われる人によく利用されている。今後も来館が困難な人のためのアウトリーチサービスの一環として、新たな施設配置での利用状況に応じて、利用者一人ひとりのニーズをくみ取りながら多様な資料を届けていきたい。



都市緑化植物園入口前

施設巡回ステーションについては、児童発達支援事業所あゆみが児童発達支援センターの建物へ転居したこととともない、令和6年1月に「児童発達支援事業所あゆみ」を廃止、「児童発達支援センター」の時間を延長し、引き続きサービスを利用していただいている。また、一般ステーションでは、「日商岩井第1緑地公園マンション」について、より安全にご利用いただくために、令和6年3月から、「都市緑化植物園入口前」へ移転した。



あおぞらおはなし会月間

令和5年度は、11月に「あおぞらおはなし会月間」を実施した。以前は、「堀田公園」のみでおこなっていたあおぞらおはなし会であったが、令和5年度は天候やスペースなどの面で可能な限りすべてのステーションで実施した。うち2か所のステーション（「朝日プラザ千里A棟前」・「堀田公園」）についてはおはなしボランティアグループと図書館職員でおこない、合計11か所で、大人66名・こども73名・合計139名の方にご参加いただいた。また、豊中支援学校にて「おはなし会がやってきた！」をおはなしボランティアグループと図書館職員でおこなった。プログラムにはパネルシアター、手遊びや歌も取り入れ、クラスごとにさまざまな反

応が見られた。今後も「あおぞらおはなし会月間」や「おはなし会がやってきた！」を通じて、子どもたちが本に出会い、その楽しさを知ってもらう機会としたい。

■貸出人数 7,159人

■継続貸出を除く個人貸出冊数 49,309冊